

# 令和 7 年度事業報告

(令和 7 年 5 月 1 日～令和 8 年 4 月 30 日)

## I. 学術講演会等の開催

### 1. 第 67 回学術講演会 (ASGO2025 併催)

日 時： 令和 7 年 7 月 17 日 (木) ～7 月 19 日 (土)

(WEB 開催：～8 月 19 日 (火))

会 場： 東京国際フォーラム (東京都千代田区)

WEB 併催

参加者数： 2,595 名 (会場参加者 1,844 名)

演題数： 一般演題口演 (日本語)：191

一般演題ポスター (日本語)：259

高得点演題口演 (日本語)：23

病理症例検討会採用：10

令和 4 年にコロナ禍においてリアル開催と Web を融合させたハイブリッド方式が第 64 回学術講演会 (久留米市) で初めて本格的に導入されて以降、本会では、ハイブリッド方式を採用している。第 67 回は、ASGO2025 と併催であったため、ASGO とのジョイントセッションを企画した。現地での参加者は前年より多く、会員同士の相互交流が盛んに行われ、活発な討論や質問を促進した。特別講演、招請講演、会長講演、シンポジウム、ワークショップ、野澤記念受賞講演、Plenary セッション、JGO ワークショップ、Surgical Film Session、教育講演、特別企画、Tumor Board、ディベートセッション、センチネルリンパ節普及 WG 企画、Winter gathering、ハンズオンセミナー、指導医講習会、病理症例検討会を行い、他学会 (日本腫瘍循環器学会、日本女性医学学会、がんサポーターズケア学会) ととも合同企画を実施した。会期中に「我慢しない婦人科がん治療」と題した市民公開講座を行った。

### 2. 第 12 回研修会

日 時： 令和 7 年 12 月 1 日 (月) ～12 月 15 日 (月)

WEB 開催

参加者数： 938 名

教育プログラム B (B-1 悪性疾患の治療、B-2 がんの精神的社会的側面、B-3 子宮頸がん・外陰がんの手術、B-4 子宮体がんの薬物療法、B-5 卵巣がん・卵管がん・腹膜がんの予防・診断、B-6 絨毛性疾患の診断・治療) をオンデマンド配信で実施した。

### 3. 内視鏡手術手技研修会

本邦における婦人科腫瘍医の内視鏡手術手技のスキル向上と均霑化を目指し、第 67 回学術講演会中にハンズオンセミナーを開催した。「骨盤解剖モデル」を使用した Advanced

コースを行った。

#### 4. コルポスコピー研修会

コルポスコピーや下部女性生殖器についての知識に関する教育普及を行い、子宮頸部腫瘍に精通した医師を育成するために、年1回のコルポスコピー研修会を開催している。3年で1単位として活動してきたが、本年は4回目となるため、新たに3か年計画で行っていく予定である。今回も、子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会(JSGO-CCCP)の委員長やシニア委員の指導を受け、若手委員も講師を担当した。今後も若手の育成に力を入れていく。

日 時： 令和8年3月15日（日）

会 場： 東京慈恵会医科大学2号館講堂

参加者： 103名

プログラム

- ・コルポスコピーと細胞診・組織診～病理医からみた ASC-US
- ・コルポスコピーどう学び・どう教育するか  
～事前アンケート結果から見るコルポスコピー診療の現状
- ・コルポスコピーどう学び・どう教育するか～グループワーク/症例検討
- ・特殊症例、特に妊娠中のコルポスコピー
- ・コルポスコピー実践演習

#### 5. 教育委員会主催 WEB セミナー

本年度も教育委員会 WEB セミナーを、ZOOM ウェビナーを利用して実施した。手術、薬物療法、免疫療法、緩和、ガイドラインのカテゴリーで1時間、1人～3人の講師によりライブ配信した。ライブ配信した講演を e-academy として HP に掲載し、見逃した会員、再度見直したい会員が視聴できるようにしている。

#### 6. Winter Gathering の開催

将来の婦人科腫瘍分野の診療、研究、教育を牽引していく若手医師の意見を抽出し、本会の将来におけるより良い役割、今後の方向性、継続性を模索するため、幅広い施設から若手医師に参加してもらい第3回を実施した。

日 時： 令和8年1月24日（土）～25日（日）

会 場： ホテルメトロポリタン盛岡本館

ANA クラウンプラザリゾート安比高原

参加者： 37名

5つのテーマ（つながりがキャリアを育てる、腫瘍内科医と考える婦人科腫瘍の化学療法、AI に任せられる仕事と最後まで任せられない仕事～婦人科腫瘍医の“判断”はどこに残るのか～、GYNPATh（ギンパス）Gynecology+Pathology～婦人科腫瘍と病理のパ

ス(道・連携)～、燃え尽きない婦人科腫瘍医)でグループに分かれ討論を行った。第 68 回学術講演会で成果発表を行う。

## II. 機関誌及び論文図書等の発行

### 1. 機関誌「日本婦人科腫瘍学会雑誌」の発刊について

| 発行年月日            | 巻  | 号 | 発行部数       |
|------------------|----|---|------------|
| 令和 7 年 7 月 23 日  | 43 | 3 | オンラインジャーナル |
| 令和 7 年 10 月 24 日 | 43 | 4 | オンラインジャーナル |
| 令和 8 年 1 月 28 日  | 44 | 1 | オンラインジャーナル |
| 令和 8 年 4 月 24 日  | 44 | 2 | オンラインジャーナル |

### 2. ガイドラインの発行について

本年度は「卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2025 年版」を発刊した。「子宮頸癌治療ガイドライン 2027 年版」の改訂に着手した。令和 9 年 4 月の発刊予定である。また、子宮頸癌治療ガイドライン 2022 年版の CQ19 の update を行った。子宮体がん治療ガイドライン 2023 年版の CQ21 の update の検討に入った。「外陰がん・膣がん治療ガイドライン 2028 年版」の協議を行った。

### 3. 英文誌について

令和元年にオフィシャルジャーナルとなった Journal of Gynecologic Oncology (JGO) の編集協力を行い、年間 6 回(奇数月)に発刊(オンラインジャーナル)を行った。

## III. 婦人科腫瘍学に関する調査研究及び教育の助成

### 1. 野澤記念研究助成

令和 8 年度の研究助成対象者を研究助成選考小委員会で審査をした結果を理事会で報告し、対象者を決定した。応募者は 12 名であり、3 名に助成する。

## IV. 婦人科腫瘍専門医及び医療機関の認定

### 1. 専門医の認定

専門医制度規則・細則に基づき、専門医試験を実施した。申請の対象者は、当会が認定した指定修練施設において 3 年以上の修練を行ったものである。試験は令和 7 年 12 月 14 日(日)に筆記試験 100 問が行われた。試験終了後、同日に資格認定委員会を開催し、申請者に対する可否の判定が行われた。

受験者 80 名 合格者 72 名 不合格者 8 名

### 2. 専門医の更新・再認定

専門医制度規則・細則に基づき、更新の申請を提出した 187 名と再申請 1 名に対し、令和 8 年 2 月 16 日(月)に資格認定委員会を開催し、審査を行った。

177 名が専門医資格更新、1 名が再認定となり、10 名は更新の要件を満たしていない

め、1年間の更新保留とした。また、更新申請の提出がなかった8名は専門医資格を停止とした。

### 3. 指定修練施設の認定

専門医制度規則・指定修練施設認定施行細則に基づき、申請書類を提出した19施設に対し、令和7年6月30日(月)に指定修練施設認定委員会を開催し、審査を行った。2施設をA施設認定、17施設をB施設認定とした。また、更新に関して、126施設から更新申請があり、111施設がA施設、15施設をB施設として条件を満たしていたため更新を認めた。

### 4. 専門医試験を合格し認定を受けた72名、更新177名、再認定1名に対し、認定証の交付を行い、登録の手続きをした。また、当会HPの専門医一覧に公開をした。

### 5. 指導医の認定

専門医制度規則・細則に基づき、令和8年2月16日(月)に認定審査を行った。申請書類を提出した41名に対し審査を行い、39名を合格とし、認定証の交付を行った。指導医更新は、44名の申請があり全員の更新を認めた。申請がなかった9名の資格を停止とした。

### 6. 試験問題の作成

令和元年に作成した専門医制度規則試験問題作成施行細則に則り、試験問題作成委員を選出し、問題作成を依頼した。WEB会議にて問題選定と修正を郵送とWEB会議で行い、問題を事務局から出すことを禁じられている段階からは、委員長が事務局に行き、問題の修正と確認を行った。

本会専門医（婦人科腫瘍専門医）は日本専門医機構サブスペシャリティ領域として認定された。今後は専門医機構のサブスペシャリティ領域における整備基準、指針および細則等に則り、実施していく。認定については次年度（令和9年度）より開始予定である。

## V. 国際および国内関係学術団体との連絡及び提携

### 【国際渉外事業】

1. 令和6年1月10日 International Gynecologic Cancer Society (IGCS)とのアライアンスを締結したことに伴い、本会の会員は自動的にIGCSの会員資格を付与されているので、IGCS若手チーム(10名の若手医師)、IGCS病理チーム(5名の若手医師)を結成し、積極的に活動に参加している。

- ① Project ECHO (Extension for Community Healthcare Outcomes)
- ② IGCS若手チームおよび病理チームで、エチオピア、フィリピン、ウガンダ、ケニア、のTumor Boardへ参加した。本邦からの症例発表も検討していく。
- ③ Early Career Research Network & Publication Network  
Junior Mentorとなっている会員を中心に子宮頸がんの調査研究を実施した。
- ④ Education360&Surgical film

本会理事と会員が作成した手術動画（Current Status and Future of Robotic Surgery）を IGCS に提出した。また、IGCS 若手チームを中心に、E-academy 動画を参考に Education360 動画を作成中であり、今後投稿する予定である。

- ⑤ 渉外委員の1名が「Surgical film library for the Education360 Learning Portal」のメンバーとして活動している。
- ⑥ IGCS2025 において Round Table Discussion を企画し、10名の参加者をサポートした。
2. 2027年のIGCS（International Gynecologic Cancer Society）のAnnual Global Meetingを東京にて開催（第69回学術講演会と併催）することが決定した。
3. ASGO 若手チーム（8名の若手医師）を組織し、ASGOの各Committeeに参加するなど、様々な活動している。ASGO 若手チームのメンバー1名が ASYGO（Asian Society of Young Gynecologic Oncology）の初代Presidentとして活躍している。ASGO2026 若手 scientific committee member として渉外委員会若手チームの医師が参加する予定である。
4. KSGO 2026（韓国 ソウル）に、若手医師7名がYoung Doctor Awardsとしてサポートを受け参加した。
5. ASCO2025（アメリカ、シカゴ）、ESMO2025（ドイツ、ベルリン）、IGCS2025（南アフリカ、ケープタウン）、ESGO2026（デンマーク、コペンハーゲン）、SGO2026（アメリカ、サンフランシスコ）への海外学会参加補助を行った。ESGO2026は、参加補助を受けた会員がWEBセミナーで報告を行った。SGO2026は、参加補助を受けた会員が令和8年度にWEBセミナーで報告を行う予定である。
6. 第67回学術講演会の会期中に、英国より講師を招き、本邦で初めて「IFCPC 認定コルポスコピスト trainer 育成コース」を開催し、多くのtrainerを育成した。

#### 【国内渉外事業】

1. 令和7年度診療報酬改定に関して、外保連・内保連、関連学会と連携、協力を行った。
2. 日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会と合同で行っている JESGO 運営委員会では、2024年1月に運用を開始した JESGO システムの改修、広報、追加システムに関する協議を行っている。
3. 予防接種専門協議会の会議に参加し、会員への情報発信を行っている。
4. 2025年10月16日（木）～18日（土）パシフィコ横浜（横浜市）で開催された第63回日本癌治療学会学術集会の臓器別セッションプログラム委員会を発足し、臓器別セッションとして5つのセッション（①どうして私が研究を？～つながりで始める TR～ ②婦人科がん治療の未来を切り拓く ― 新規薬物治療とADCの基礎から臨床へ ③子宮体癌 新進行期分類（FIGO2023）の導入における課題と展望-新分類実装に向けて ④婦人科がん手術の限界に挑む ― 治療の決断と多診療科連携の実践 ⑤婦人科がん × 機械学習 ― 多様化するAI応用の可能性）を企画した。セッションごとに論文を作成し、IJCO 誌に投稿予定である。
5. さらなる国際化を目指し、専門医委員会との協議の上、国際学会参加時の専門医ポイントを増点した。

## VI. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

### 【総務委員会】

1. 令和8年度の名誉会員・功労会員の推戴の件、第71回学術集会集会長の選出の件、会員の資格喪失者の件について協議を行った。
2. 第32回日本医学会総会における登録推進委員の選出依頼があり、会員1名を選出した。
3. 日本医学放射線学会より「画像診断ガイドライン」外部委員の推薦依頼があり、会員1名を推薦、また、「画像診断ガイドライン」BQ/FQ外部評価の依頼があり、対応した。

### 【利益相反小委員会】

1. 理事長・副理事長・理事・監事、学術集会会長、次期学術集会会長、次次期学術集会会長、各種委員会委員長、各種ワーキンググループ委員長、社会保険委員、倫理委員、ガイドライン委員、利益相反委員、編集委員から提出された、令和5年、令和6年、令和7年分（いずれも1月～12月）の自己申告書の提出の確認を行った。
2. 日本医学会分科会利益相反会議の開催案内があり、委員1名が出席した。

### 【学術委員会】

1. 学術講演会事後評価委員会を設置し、第67回学術講演会に関して参加者にアンケートを実施した。アンケート回答に関して解析し理事会に報告した。
2. 第68回学術講演会のプログラム委員会を発足し、プログラムの協議を行った。
3. 第67回学術講演会での病理症例検討会の反省と、第68回への引継ぎを行った。また、コメンテーターの選出を行い、レビュー会議を実施した。

### 【教育委員会】

1. 教育プログラムの内容検討、第12回研修会を実施した。
2. 令和2年度より開始したWEBセミナーを開催した。WEBセミナーの動画をe-academyとしてHP上に掲載し、会員の勉強に役立ててもらっている。

### 【手術手技研修小委員会】

1. 第67回学術講演会でハンズオンセミナーを実施した。Advancedコース（骨盤解剖モデルを用いた実習 子宮体癌を想定した実習を行う）を実施した。
2. 日本婦人科ロボット手術学会プロクター制度委員会より、プロクター共同認定の依頼があり、認定を行った。

### 【子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会】

1. 令和5年に開始した子宮頸部病理・コルポスコピーの手引きのテキストを発刊した。
2. 令和8年3月15日（日）に第4回コルポスコピーセミナーを開催した。
3. IFCPCのe-learningの日本語版翻訳を行った。
4. 第67回学術講演会でIFCPCの講師によるtraining for trainers seminarを開催し、99

名が受講した。その後、IFCPC トレーナー育成フォローアップ会議を継続的に行った。

#### 【編集委員会】

1. 和文誌の発刊を行った。
2. 機関誌の査読員へのインセンティブ付与の一環として和文誌、ならびに英文誌（Journal of Gynecologic Oncology）の Best Reviewer Award の受賞者の選定を行った。

#### 【倫理委員会】

1. 日本医学会連合研究倫理委員会作成の『学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針』に沿った内容で、本学会学術講演会の演題募集の際の新たなフォームの導入を行った。

#### 【社会保険委員会】

1. 外保連からのアンケートおよび各委員会からの情報を共有し、R8 年度診療報酬改定の申請書作成と準備や関連会議を実施するとともに厚労省ヒアリングなどの対応を行ってきた。
2. R8 年度診療報酬改定項目について下記 A)～D)について改定がなされた。
  - A) センチネルリンパ節生検術（子宮悪性腫瘍手術）新規
  - B) 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（K879-2）改正 ロボット支援も含む
  - C) 子宮悪性腫瘍手術（広汎切除）（ロボット支援）新規
  - D) 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）（K627-2-2）改正
3. 厚生労働省から減薬・休薬に関する研究シーズ探索のための調査への協力依頼があり、令和 8 年 1 月に厚労省のヒアリングを受けた。
4. 薬剤メーカーから発出される薬剤の供給制限や供給停止の要望。また、薬剤に関する情報について、本学会としての方針の決定や学会会員への情報提供を行った。また、必要に応じて日本産科婦人科学会との連携を取りながら、産婦人科全体での対応をした。

#### 【広報委員会】

1. WEB セミナーのオンデマンド閲覧ページ JSGO E-academy や、患者教育のための教育アニメーション動画の閲覧数を増やすための広報活動を行っている。
2. 国際学会に関する案内および国際学会参加者同士がつながることができる国際学会ページに係る事務作業を自動化した。
3. 学会ホームページの一般閲覧者に向けた「市民の皆さまへ・HPV ワクチン Q&A」の内容を更新した。

#### 【ガイドライン委員会】

1. 委員会開催
  - ① 親委員会の開催（今後の発刊、改訂中のガイドラインに関して協議を行った）
    - ・令和 7 年 7 月 22 日(火)第 1 回ガイドライン委員会
    - ・令和 7 年 10 月 8 日(水)第 2 回ガイドライン委員会
    - ・令和 8 年 1 月 13 日(火)第 3 回ガイドライン委員会
    - ・令和 8 年 4 月 27 日(月)第 4 回ガイドライン委員会

② 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2025 年版改訂委員会

- ・令和 7 年 5 月 29 日（木）最終会議

③ 子宮頸癌治療ガイドライン 2027 版改訂委員会

- ・令和 7 年 5 月 8 日（木）第 2 回コアメンバー会議
- ・令和 7 年 6 月 9 日（月）第 3 回コアメンバー会議
- ・令和 7 年 7 月 22 日（火）全体会議
- ・令和 7 年 10 月 27 日（月）第 4 回コアメンバー会議
- ・令和 8 年 1 月 27 日（火）第 5 回コアメンバー会議
- ・令和 8 年 2 月 18 日（水）全体会議
- ・令和 8 年 4 月 27 日（月）第 6 回コアメンバー会議

2. 論文の執筆

子宮体がん治療ガイドライン 2023 年度版の英語バージョンが JGO 誌に掲載された  
(J Gynecol Oncol 2025;36(3):e119)

3. 転載

令和 6 年 5 月 1 日～令和 7 年 4 月 30 日まで、37 件の転載許諾依頼を承認した。

【JESGO 運営委員会】

1. 令和 5 年度に本運用を開始した。本年度はシステムを使用している施設の対応と、未開発部分の開発を行った。また、第 67 回の本会学術講演会をはじめ、各学会において講演を行うとともに、本会 HP 上の記載を整備し、JESGO の普及活動に努めた。

2. 令和 8 年 1 月に婦人科腫瘍登録に対応したシステムリリースを実施した

【がんゲノム医療、遺伝性腫瘍診療の適正化に関するワーキンググループ】

1. 「婦人科がんにおけるバイオマーカー検査の手引き」を公開した。転載許諾申請 2 件について受理し、本会ならびに日本産科婦人科学会の各学会の規定に沿って転載利用料を請求した。
2. 日本癌治療学会、日本遺伝性腫瘍学会、大腸癌研究会（JSCCR）と本会の四学会合同で、婦人科医が診療上で知っておくべき Lynch 症候群の診断の治療方針への影響、臨床的有用性について取りまとめ、学会 HP 上で見解として発出した（令和 7 年 8 月 1 日）。
3. 「がん遺伝子パネル検査の実態調査 施設アンケート」を行った。
4. 「HBOC 診療に関する施設アンケート」の調査結果について論文投稿、JGO 誌に採択された。

【卵巣がんに対する鏡視下手術の保険収載に向けたワーキンググループ】

1. 2025 年 3 月 6 日に先進医療を開始し、令和 8 年 4 月 15 日時点で参加 56 施設（うち実施 18 施設）で、102 例（目標 350 例）まで症例登録した。
2. 令和 7 年 11 月 27 日（木）、令和 8 年 4 月 15 日（水）進捗会議を行った。

【若手ワーキンググループ】

1. 第 2 回 Winter Gathering の成果報告を KSGO2025 にてポスター発表した。
2. 令和 8 年 1 月 24 日（土）・25 日（日）に第 3 回 Winter Gathering を開催した。成果を

第 68 回学術講演会で発表する。

3. 次回は令和 9 年 1 月 30 日～31 日を予定している。

【婦人科医以外の会員増加に関するワーキンググループ】

1. 婦人科腫瘍の診療に関連する多様な先生方に本会の学術講演会に参加してもらえよう、第 67 回学術講演会プログラム委員会に病理医、放射線科医、腫瘍内科医に参画してもらうことを学術委員会に依頼し、第 67 回学術講演会プログラム委員会より参画が実現した。
2. 若手 WG や多彩なキャリアを支援する WG と協働して、「Winter Gathering」や「婦人科腫瘍医を目指す医学生と若手医師をサポートする座談会」の拡充に努めることを協議した。

【多彩なキャリアを支援するワーキンググループ】

1. 第 2 回婦人科腫瘍医をめざす医学生と若手医師をサポートする座談会を令和 7 年 11 月 15 日（土）に開催した。

＜座談会アジェンダ＞

- ・開会の挨拶
- ・専門医制度について
- ・ロールモデル 2 名のプレゼンテーション
- ・日本医師会ドクターサポートセンター紹介
- ・ブレイクアウトルームに分かれて座談会（4 グループ）
- ・各グループのファシリテーターによる座談会のまとめ
- ・閉会の挨拶

【センチネルリンパ節生検普及ワーキンググループ】

1. 婦人科腫瘍学会 HP 上で既に公開している「婦人科悪性腫瘍センチネルリンパ節ナビゲーション手術の指針 Ver. 2」を令和 7 年 11 月にアップデート、「婦人科悪性腫瘍センチネルリンパ節ナビゲーション手術の手引き Ver3. 1」の改訂を令和 8 年 4 月に行った。
2. 日本産科婦人科学会と合同で、「センチネルリンパ節生検実施指針」を作成した。
3. JESGO 運営委員会に依頼し、「SN 生検/SNNS 症例登録」の整備を行った。

令和 7 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和 8 年 7 月  
公益社団法人日本婦人科腫瘍学会